

銀行の誕生

殖産興業の政策を進める明治政府によって、金融制度の整備がはじまり、1872(明治5)年にアメリカの銀行制度を参考にして国立銀行条例が制定された。明治政府は、民間の産業を育てるために、国立銀行の設立を進めた。



第一国立銀行は、銀行としても、株式会社(→p.88)としても、日本初だよ。



<日本を活気づける>

国立銀行の設立は、経済発展の手はじめとして、会社設立や事業の拡大のための資金を貸し出すためだった。1873(明治6)年に兜町に第一国立銀行が設立され、同じ時期、横浜、大阪、新潟にも国立銀行が設立された。

第一国立銀行
名前に「国立」とあるが民営の会社。これは、アメリカの「ナショナルバンク」をまねて設立されたため、ナショナル=国立、バンク=銀行に、日本で1番目にできたという意味の「第一」がつけられて、この名前になった。



5階建ての洋風大建築で、東京の新名所となった。

国立銀行の仕事

国立銀行の役目は資金の貸し出しだけではない。そのほかにも、古いお金を回収して新しいお金にとりかえたり、両替を行ったりした。



集める

たくさんの人からお金を集めて預かった。



貸す

資金を必要とする個人や会社にお金を貸し出した。



兌換

古いお金を新しいお金にかえたり、等しい価値の金とかえたりした。



両替

外国や日本などのお金を、等しい価値でとりかえた。

貨幣制度を整える

江戸時代のお金(→p.26)は、金貨、銀貨、銭貨や地方の藩札など、貨幣制度が統一されておらず複雑だった。そのため明治政府は、1871(明治4)年に新貨条例を制定し、新しいお金の単位を「円、銭、厘」という単位に定め、全国一律の貨幣制度を整えた。古いお金を新しいお金にかえる兌換業務は、国立銀行が行った。



日本帝國大造幣局



1円金貨

それまでの1両を1円として、1円金貨は金1.5gの重さでつくられた。

造幣局

1871(明治4)年、近代的な貨幣制度のために、明治政府によって大阪に設立された。

銀行が増えた

1876(明治9)年に国立銀行条例が改正され、銀行の設立が容易になり、全国で国立銀行の設立が相次いだ。1879(明治12)年末には、その数は153行にもなった。



●日本銀行が生まれた

1882(明治15)年、日本銀行条例によって設立された。1876(明治9)年の国立銀行条例の改正は、国立銀行によるお金の発行も認められたため、日本中でお金が増え続けた。こうしたことから、明治政府はお金の発行もとを1つにし、お金の価値の安定を図る必要性を感じ、国の金融制度の中心として日本銀行を設立した。銀行のための銀行なので、一般への資金の貸し出しは行わない。



今も日本橋にある日本銀行の建物は、1896(明治29)年に完成したものだ。



はじめての日本銀行券

1885(明治18)年に発行された10円紙幣。1899(明治32)年末には、政府発行のお金と国立銀行発行のお金は通用停止となり、日本のお金は日本銀行券に統一された。

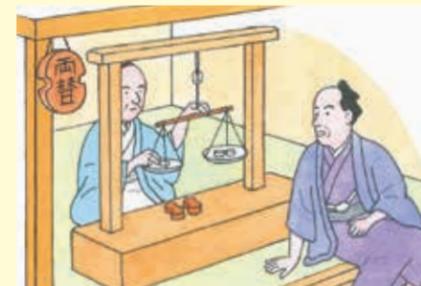
銀行をつくった人

渋沢栄一(1840~1931)
明治政府の大蔵省(現在の財務省)に務めたが民間に移り、第一国立銀行を創立させた。そのほか、500あまりの会社企業の設立にかかわり、日本の経済、金融の近代化に努め、「資本主義の父」とよばれている。



日本銀行が設立されると、たくさんあった国立銀行にお金の発行の役目はなくなり、ふつうの銀行になっていくのよ!

銀行のマークはカイコの形



明治前まで銀行の役目をしてきたのは両替屋とよばれる商人だった。両替屋の看板は、分銅の形をしていて、この分銅は「カイコのまゆ」をまねたもの。地図記号で「銀行」を表すマークは、この両替屋の看板の形からきている。



銀行の地図記号

カイコのまゆ

絹織物は高級品で、金と同じように貴重だった。そのため、お金をあつかう両替屋が、絹糸のもとである「カイコのまゆ」の形を分銅にした。



年貢の米から地租の現金に

明治政府は、江戸時代の年貢を国家の収入として引きついでいたが、年貢は収穫量に左右されるため、財政は不安定だった。そこで政府は、財政を安定させるために租税制度の改革を行った。1872(明治5)年に地券が発行され、1873(明治6)年には地租改正条例が出されて、収穫物に対してかけられていた税が、土地の価格に対してかけられる地租に変わった。



地券

土地の所有権を認め、所有者に発行された証書。所有者の氏名や土地の面積、土地の価格である地価などが記されていた。



土地の測量

改革の手はじめとして土地の測量が行われ、地価が決められた。地租は地価の3%で、現金で納めさせた。反対運動があって、2.5%に下げられた。